

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。	子どもは、友達となかよくしていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

本年度は、感染状況や学校生活に不安を感じる児童などの心のケアに努めてきた。生徒指導部会や情報交換会「E.Tの時間」では各学年から出された支援を必要としている児童について話し合ってきた。その後は、必ず全職員で共通理解をする場を設けていった。「児童生徒の尊重」では、児童の「そう思う」への回答が70%を占めている。児童は、教師を信頼して生活していることがうかがえる。「道徳・心の教育の充実」で、保護者の方は、「どちらかといえばそう思う」への回答50%を占めている。学校側から「心の教育」の啓発を更に進めていく必要がある。

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

「意欲的な学習態度」に関しては保護者の方の意見の中に「どちらかといえばそう思わない」の回答が多くなっている。家庭学習の充実を求められていると思われる。学年に応じた家庭学習の進め方を具体的に示していく必要がある。ICTを活用した授業づくりにおいて、職員は意欲的に取り組み、多くの教科で充実した授業が行われている。しかし、各家庭でのタブレットの使い方等には、新たな課題も見えてきた。児童には情報モラルの徹底、情報を管理していく力をつけていくことなど、全職員で考えていきたい。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり	8 児童生徒理解
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。

コロナ禍の生活を送ることで、子どもたちの生活が不安定になっている。睡眠、体作りなど、家庭との連携なしでは改善できないと考える。感染防止については、全職員で注意を払いながら取り組んでき

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制	②特別支援教育の推進
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

本年度、児童の実態に関して、全職員で共通理解して支援を考えてきた。一人一人のニーズに合わせた支援を心がけてきたが、保護者の方の回答を見ると、昨年度と比べて「どちらかといえばそう思わない・そう思わない」への回答が増えている。保護者の方が求めておられることは何か、教師側が行っている支援体制が児童のニーズに適しているか、など再検討していく。教職員間での共通理解は学年部や部会などで常に心がけてきた。様々な問題への対応は、学校全体で話し合い取り組んできた。来年度も更に充実した取り組みになるようにしていきたい。

②特別支援教育の推進

12 安全と事故防止	①子どもたちの身近な安全対策の充実
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

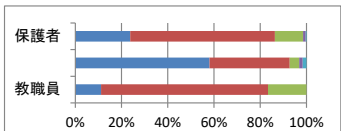
特別支援教育については、「交流及び共同学習」について「そう思う」の回答が低い。お互いに学び合える環境作り、人間関係作りの方策を考えていく。そして、保護者の方、地域の方への理解を求めていきたい。

校舎増改築に伴い、運動場が狭くなり、遊びや運動に制限がかけられた。そのため、保護者の方も環境面で心配されたと思う。11月に校舎が完成し、安心して、生活ができるようになった。

②最適な学習環境の整備

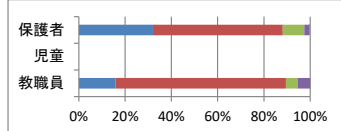
14 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

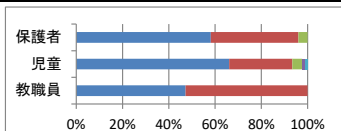


本年度は、コロナの感染状況を踏まえて、授業参観は、行うことができたが、保護者の方との懇談会等は、リモートでしか話し合うことができなかった。担任の思いや学級経営について、通常の関わりより伝わらないことも多くあったと思われる。来年度は、個人面談の回数を増やして、顔を合わせて伝えていきたい。本校のPTA役員の方にはたくさんのご協力をいただき、地域の方や保護者の方とのつながりを持つことができた。

0

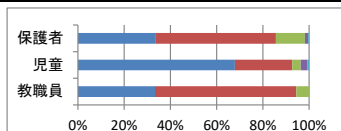
16 1

d子どもは、学校に楽しく通っていますか。



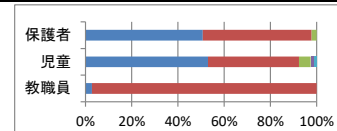
17 2

d子どもは、前よりもあいさつができるようになったと思いますか。



18 3

d子どもは、学校のきまりを守っていると思いますか。



本校の教育について、子どもたちは、楽しく学校に通っていることがわかる。あいさつに関しては、昨年度の結果と比べてみると「よくできている」「だいたいよくできている」が増えている。生徒指導部、企画委員会を中心に、年間通してあいさつ運動を推進してきた結果であると思われる。「きまり」に関しては、個人差、学年差があるが、規範意識は高まっている。児童数が多いため、みんなの意識を高めていくために、全職員での共通理解を大切にしたい。木曜日の夕会は生徒指導夕会とし、実態と対策について進めていくことができた。これからも続けていく。

来年度の具体的な取り組みについて

- (豊かな心を育む教育)
 - ・教職員が児童と向き合い、実態をしっかりと把握できるよう学年部、生徒指導部からの支援体制をこれまで通り基本とし、具体的な支援方法を話し合い、共通理解する。
- (確かな学力を育む教育)
 - ・ICTを活用した授業では、子どもたちへ情報モラルを指導しながら、効果的な学習を模索できる研修を進めていく。
 - ・基礎学力の底上げを図るため、少人数指導、算数専科の配置を考えながら指導体制を整える。
 - ・家庭学習の仕方を具体的に伝えていく。
- (健やかな体を育む教育)
 - ・子どもたちの体力が落ちていること、生活のリズムが壊れやすくなっていることを踏まえ、体育部を中心とした活動の機会を多くしていく。
 - (いじめ不登校に対する相談支援体制の充実) (特別支援教育の充実) (子どもたちの身近な安全対策の推進)
 - ・PTA、地域の方々に協力いただき、登下校の見守り活動を進めていく。
 - ・それぞれの児童のニーズに合わせた支援体制、ケース会議を丁寧に行い、保護者の方との連携を深めていく。

学校関係者評価

本年度、新しく評議員の方も決まり、学校評議員会を行う計画を立てていたが、本校のコロナ感染状況を鑑みると、開催することが難しかった。評議員の方に次のような感想をいただいた。
 ○学校にはなかなか訪問することが難しかったが、子どもたちが元気に学校へ行っている姿を見るとうれしくなった。
 ○学校の行事などに参加が難しくなり、とても寂しい。
 などの感想をいただいた。評議員の皆様へ学校から積極的に発信していく必要性を感じている。来年度は、学校便り等で学校の様子をお知らせしたり、この学校評価を見ていただいて、ご意見をいただく機会を持ちたい。
 登下校や緊急時にPTAの方々にもいつもお世話になっている。地域とのつながりを広げるためにも連携を密にし、発信していきたい。